

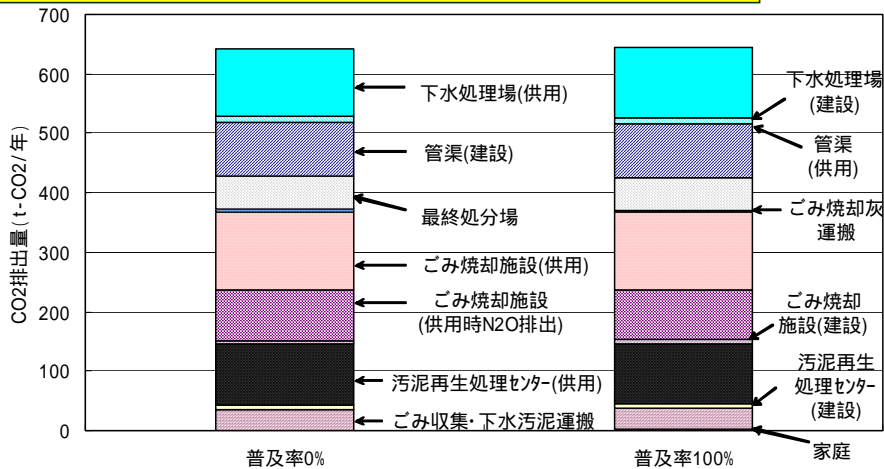
【参考】歌登町におけるケーススタディ

ディスポーザー導入による環境負荷量の変化

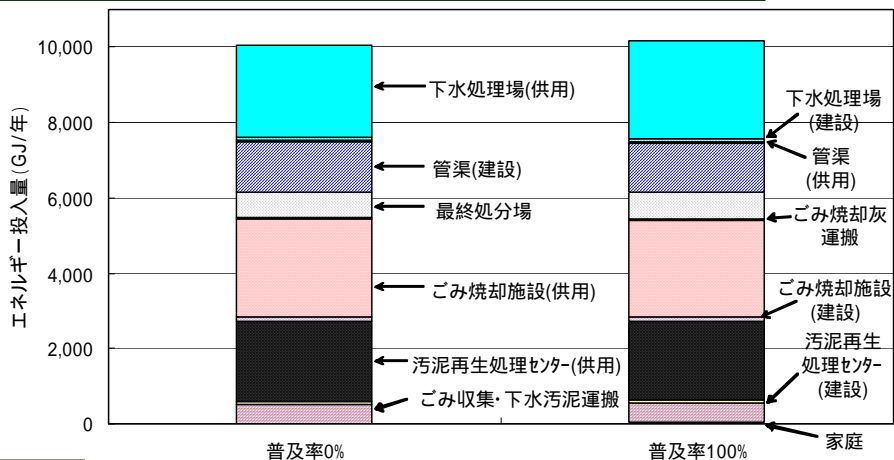
評価結果

北海道歌登町において、ディスポーザーが100%普及した場合の二酸化炭素、エネルギーベースのライフサイクル（建設・共用・廃棄段階）での環境負荷量を推定した結果、二酸化炭素排出量、エネルギー投入量いずれも1%以下の増加率にとどまっており、ディスポーザーを導入してもほとんど変わらないという結果となった。なお、本結果は試算例であり、対象地域・仮定条件により結果は異なると思われる。

歌登町におけるディスポーザー導入による環境負荷量の変化(CO2)



歌登町におけるディスポーザー導入による環境負荷量の変化(エネルギー)



主な仮定条件

- ディスポーザーを歌登町の下水道に接続している全世帯(約800世帯、約1,800人)に導入。
- 家庭厨芥のうち、99g/人・日がディスポーザーで処理されると考えた。
- 下水処理場施設の改造は考慮しない。
- 可燃ごみ用・分別生ごみ用各1台しかごみ収集車がなく、これ以上台数削減の余地がないこと、及び衛生的な観点からごみ収集頻度は変えないものとしたことから、歌登町ではごみ収集車の走行距離の減少はないものとした。